

CentreCOM 9006SX/SC
ハードウェア設置マニュアル



レイヤー2 ギガビット・インテリジェント・スイッチ

CentreCOM® 9006SX/SC



ハードウェア設置マニュアル



CentreCOM[®] **9006SX/SC**

ハードウェア設置マニュアル

ご注意

本書の中に含まれる情報は、当社(アライドテレシス株式会社)の所有するものであり、当社の同意なしに、全体または一部をコピーまたは転載しないでください。当社は、予告無く本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。また、改良のため製品の仕様を予告無く変更することがあります。

Copyright © 2000 アライドテレシス株式会社

商標について

CentreCOM は、アライドテレシス株式会社の登録商標です。
MS-DOS、Windows、Windows NTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
本マニュアルの中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

安全のために



必ずお守りください

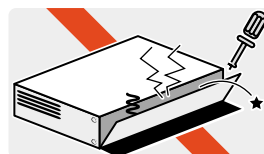


警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

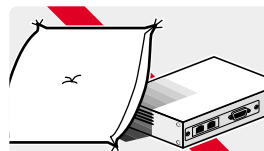
火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

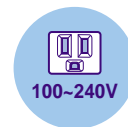
内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

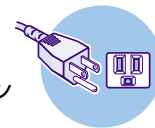
火災や感電の原因となります。
本製品は AC100 - 240V で動作します。
なお、本製品に付属の電源ケーブルは 100V 用ですのでご注意ください。



電圧注意

正しい電源ケーブル・コンセントを使用する

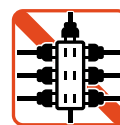
不適切な電源ケーブル・コンセントは火災や感電の原因となります。
接地端子付きの3ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付きの3ピン電源コンセントに接続してください。



3ピン
コンセント

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

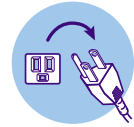
たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを
抜く

電源ケーブルを傷つけない

火災や感電の原因となります。

電源ケーブルやプラグの取扱上の注意：

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものを載せない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・電源ケーブルをコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

光源をのぞきこまない

目に障害が発生する場合があります。

光ファイバーケーブルのコネクタ、ケーブルの断面、製品本体のコネクタなどをのぞきこまないでください。



のぞかない

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度80%以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクタの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いはいないに

落としたり、ぶついたり、強いショックを与えないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらすな



中性洗剤
使用



強く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー
類不可

このマニュアルについて

このたびは、CentreCOM 9006SX/SCをお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

本製品は、1000BASE-SXポートを6ポート、拡張モジュール用スロットを2つ装備する、レイヤー2ギガビット・インテリジェント・スイッチです。

2つの拡張モジュール用スロットには、オプションとして1000BASE-SXポートを1ポート装備したAT-A15/SX、1000BASE-LXポートを1ポート装備したAT-A15/LXの拡張モジュールが実装可能となっています。

SNMP(簡易ネットワーク管理プロトコル)による管理が可能なSNMPエージェントにより、SNMPマネージャから各種情報を監視・設定することができます。

また、内蔵されたソフトウェアによって、Telnetやターミナルポートから簡単な設定や診断も可能です。

本書では、ご使用いただくうえでの注意事項や設置の方法、付録で障害が発生したときの対処方法や製品仕様について説明しています。

本書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

マニュアルバージョン

2000年 3月

Rev.A






初版

このマニュアルについて

表記規則

本書の表記規則を以下に示します。

アイコン

アイコン	意味
 ヒント	重要な情報や指示を示します。
 注意	人体やシステムに危害や損害がおよぶ恐れがあることを示します。
 警告	人体に重大な危害がおよぶ恐れがあることを示します。
 手順	操作手順を示します。
 参照	参照ページ・参照項目を示します。

マニュアルの構成

本書の構成は、以下のとおりです。

1 はじめに

本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働き、LED表示について説明しています。

2 設置と接続

本製品を設置するときの注意事項、および設置方法と機器の接続について説明しています。

3 付録

トラブルシューティング、オプションの拡張モジュールの仕様、拡張モジュールの装着手順、製品仕様について説明しています。

4 保証とユーザーサポート

本製品の保証と、障害の際のユーザーサポート、調査依頼書のご記入方法について説明しています。

目次

ご注意	ii
商標について	ii
電波障害自主規制について	ii
安全のために	iii
このマニュアルについて	v
表記規則	vi
マニュアルの構成	vii
1 はじめに	1-1
1 梱包内容	1-2
2 特長	1-3
3 各部の名称と働き	1-4
前面	1-4
背面	1-6
側面	1-7
4 LED 表示	1-8
PORT ACTIVITY LED	1-8
STATUS LED	1-8
2 設置と接続	2-1
1 設置	2-2
設置するときの注意	2-2
設置方法	2-2
2 接続	2-4
コンソールを接続する	2-4
電源ケーブルを接続する	2-6

3	付録	3-1
1	トラブルシューティング	3-2
	セルフテストについて	3-2
	トラブルと思ったら	3-3
2	拡張モジュール	3-5
	AT-A15/SX・AT-A15/LX	3-5
3	拡張モジュールの取り付け	3-7
4	仕様	3-9
	コネクタ仕様	3-9
	ケーブル仕様	3-9
	本製品の仕様	3-10
4	保証とユーザーサポート	4-1
1	保証とユーザーサポート	4-2
	保証	4-2
	ユーザーサポート	4-2
2	調査依頼書のご記入にあたって	4-3
	使用しているハードウェア、ソフトウェアについて	4-3
	お問い合わせ内容について	4-3
	ネットワーク構成について	4-3
	調査依頼書 (CentreCOM 9006SX/SC)	4-5

1

はじめに

この章では、本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働き、LED表示について説明しています。

1 梱包内容

CentreCOM 9006SX/SC 本体(1 台)

電源ケーブル(1 本)

ラック取付金具(2 個)

ラック取付金具用ネジ(6 個)

製品保証書(3 年保証)

お客様インフォメーション登録カード

シリアル番号シール

製品仕様書(英文)

オペレーションマニュアル

ハードウェア設置マニュアル(本書)

最初に梱包箱の中身を確認してください。

本製品を移送する場合は、工場出荷時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

2 特 長

6 ポートの 1000BASE-SX ポート(SC コネクター)を搭載

拡張モジュール用スロットを 2 つ装備

ポートごとに Auto negotiate/Full duplex/Half duplex の通信モードが設定可能

IEEE 802.1Q 準拠のタグ VLAN 機能をサポート

QoS 機能をサポート

IGMP スヌーピング機能をサポート

スパニングツリー機能をサポート

ポートミラーリング機能をサポート

バックプレッシャー / フローコントロール機能をサポート

最大 12,000 個の MAC アドレスを登録可能

信頼性の高いストア&フォワードのスイッチング方式

RS-232 や Telnet で接続しているコンソールから内蔵ソフトウェアへのアクセスが可能

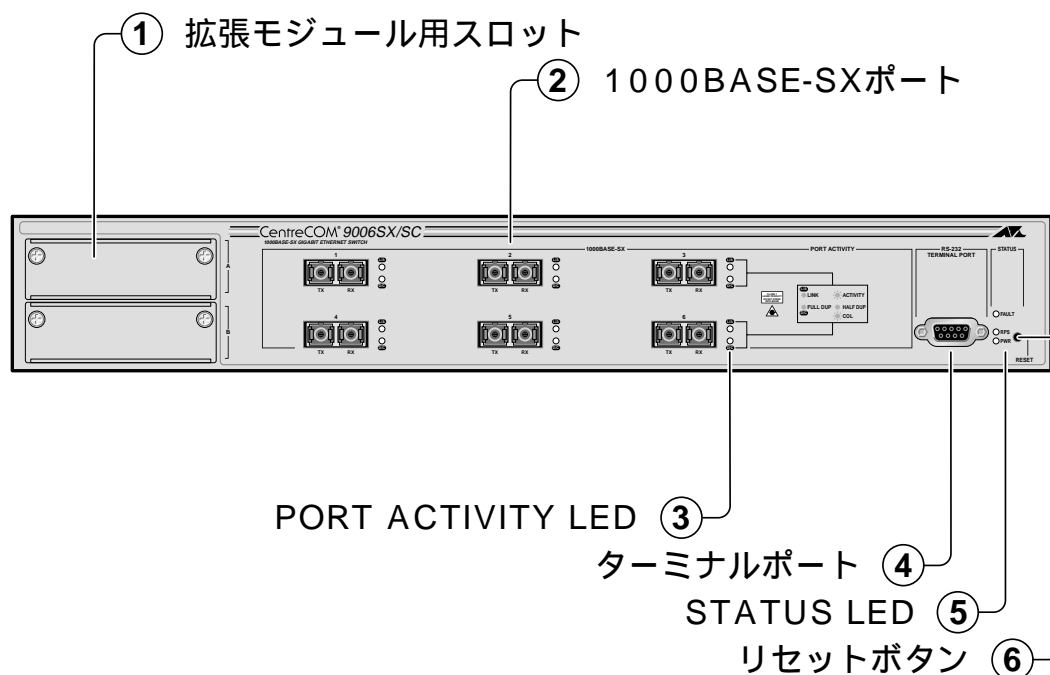
SNMP エージェント機能による監視が可能

RS-232 経由の XModem や TFTP によるソフトウェアのダウンロードが可能

DNS のサポートによりホスト名によるアクセスが可能

3 各部の名称と働き

前面



拡張モジュール用スロット

拡張モジュールを装着するためのスロットです。

参照 3-5 ページ「2 拡張モジュール」

1000BASE-SX ポート

1000BASE-SX の光ファイバーケーブルを接続するための SC コネクタです。このポートは、接続先の機器に応じて通信モードを自動検出し、最適な状態で接続する Auto negotiate がデフォルトで設定されています。通信速度は 1000Mbps 固定となります。

ケーブルは G (Graded Index) 型マルチモード光ファイバーケーブルで、コア/クラッド径が 62.5/125 μm 、もしくは 50/125 μm のものを使用してください。

参照 3-9 ページ「ケーブル仕様」



光ファイバーケーブルを接続していないときは、必ずコネクタにダストカバーを装着してください。

PORT ACTIVITY LED


ポートと対向機器間の通信について以下の項目を表示するためのLEDインジケータです。

L/A(Link/Activity LED)

対向機器間とのリンク、トラフィックの有無、通信速度を表示します。

D/C(Duplex/Collision LED)

通信モード(Full Duplex/Half Duplex)、コリジョンの発生を表示します。

 1-8 ページ「4 LED表示」

(RS-232)ターミナルポート

本体とコンソールとを接続して、ソフトウェアを使用するためのコネクタです。コネクタは9ピンメスタイプです。ケーブルはRS-232ストレートケーブルを使用します。

STATUS LED

システムの状態をモニタするためのLEDインジケータです。

FAULT

本体、またはソフトウェアの故障、セルフテスト実行中、FLASH ROMに書き込み中であることを表します。


RPS(Redundant Power Supply)

リダンダントパワーサプライ(二重化電源装置)が本体に接続されているかを表示します。

(RPSはサポートされていないため常に消灯)

PWR

電源の供給状態を表します。

 1-8 ページ「4 LED表示」

リセットボタン

本体を再起動するためのボタンです。先の細い棒などでリセットボタンを押すと再起動し、本体のセルフテストを行います。



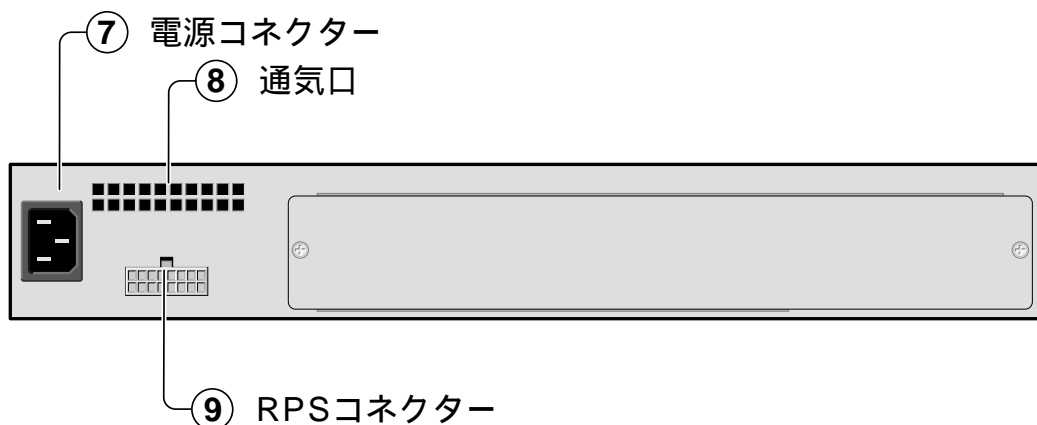
鋭利なもの(縫い針など)や通電性のある物で、リセットボタンを押さないでください。

3 各部の名称と働き

背面

1

は
じ
め
に



電源コネクタ

電源ケーブル(ソケット側)を接続するためのコネクタです。本製品はAC100-240Vで動作しますが、同梱の電源ケーブルはAC100 ~ 120V用ですのでご注意ください。

通気口

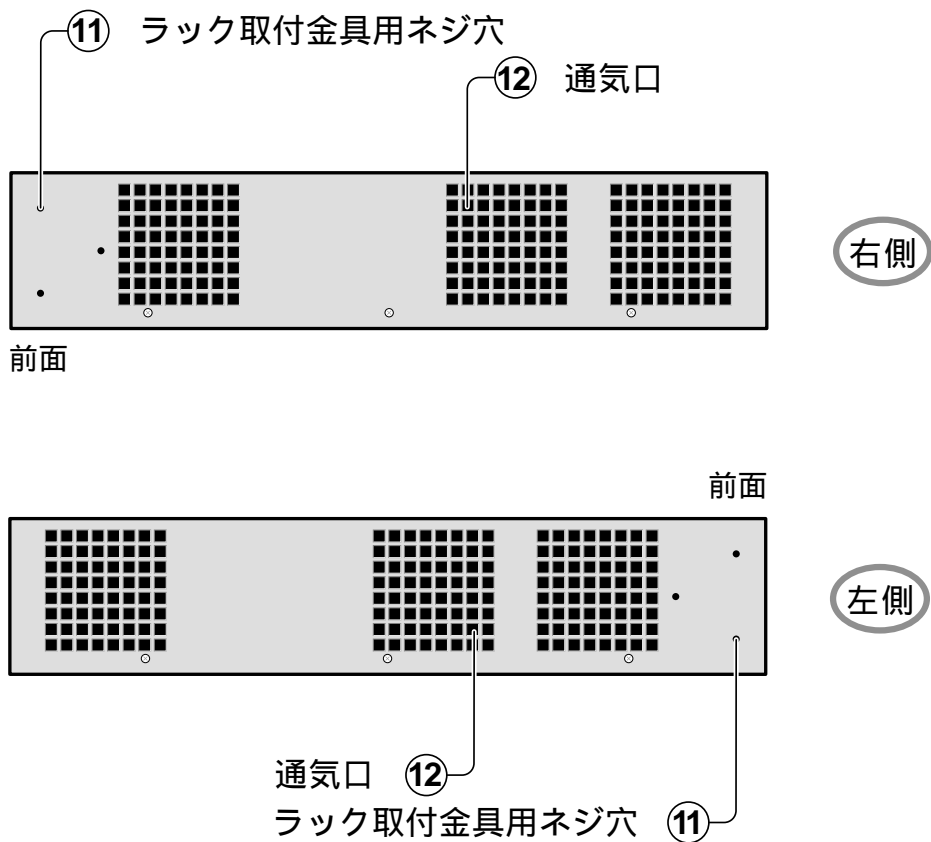
熱を逃がして、空気の循環をよくするための通気口です。

! 通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。


RPS(Redundant Power Supply)コネクタ

リダンダントパワーサプライ(二重化電源装置)を接続するコネクタです。RPSはサポートされていないのでご使用にならないでください。


側面



ラック取付金具用ネジ穴
同梱のラック取付金具を本体に取り付けるためのネジ穴です。

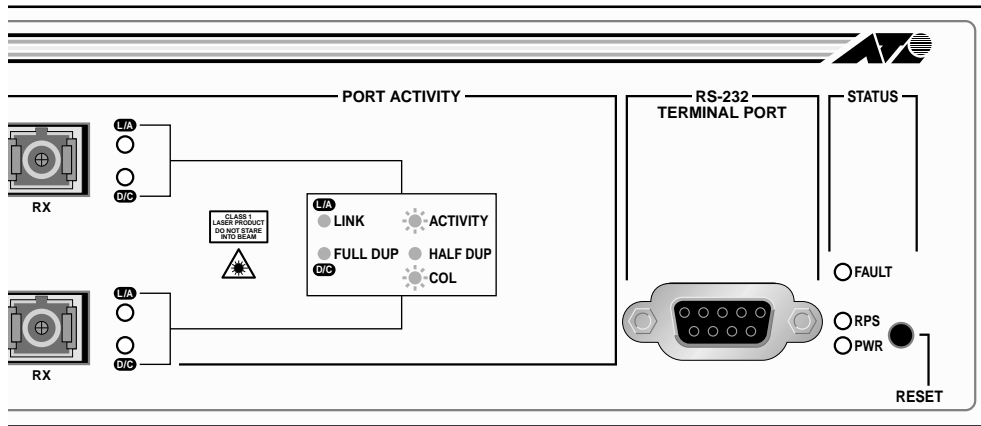
 2-3 ページ「19 インチラックへの取り付け」

通気口
熱を逃がして、空気の循環をよくするための通気口です。

 通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

4 LED 表示

本体前面には、スイッチ全体や各ポートの状態を示すLEDインジケーターがついています。



PORT ACTIVITY LED

各ポートに2種類のLEDインジケーターを配し、色・状態によって以下を表します。

LED	色	状態	表示内容
L/A (Link/Activity)	緑	点灯	リンクが確立しています。
		点滅	パケットを送受信しています。
	消灯	リンクが確立されていません。	
D/C (Duplex/Collision)	緑	点灯	Full duplexで通信しています。
		点滅	Half duplexで通信しています。
	消灯	リンクが確立されていません。	

STATUS LED

以下の3種類LEDインジケーターでシステム全体の状態を表します。

LED	状態	表示内容
FAULT (赤)	点灯	システム、または内蔵ソフトウェアが故障しています。
	点滅	セルフテスト実行中です。(起動時) FLASH ROMに書き込みを行っています。(運用時) XMODEM経由でファイルを転送中です。
	消灯	システムに異常はありません。
RPS (緑)		RPSはサポートされていないため消灯。
PWR (緑)	点灯	本体に電源が供給されています。
	消灯	電源ケーブルが正しく接続されていないか、指定した電源電圧が使用されていません。

2

設置と接続

この章では、本製品を設置するときの注意事項、および設置方法と機器の接続について説明しています。

1 設置

設置するときの注意

本製品の設置や保守を始める前に、必ず iii ページの「安全のために」をよくお読みください。

設置場所については、次の点にご注意ください。

電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような配置はさけてください。

テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。

十分な換気ができるように、本体側面、および背面をふさがないように設置してください。

傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。

本体の上に物を置かないでください。

直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。

2

設置と接続

設置方法

設置方法には、EIA規格の標準ラックに取り付ける方法と、水平な場所に設置する方法があります。

▶ デスクの上など水平な場所への設置

- 1 本体背面と側面の通気口をふさぐものがなく、水平で安定した場所に設置します。
- 2 電源ケーブルを接続し、本体に電源を投入します。接続が正しければ本体前面のPWR LED(緑)が点灯します。

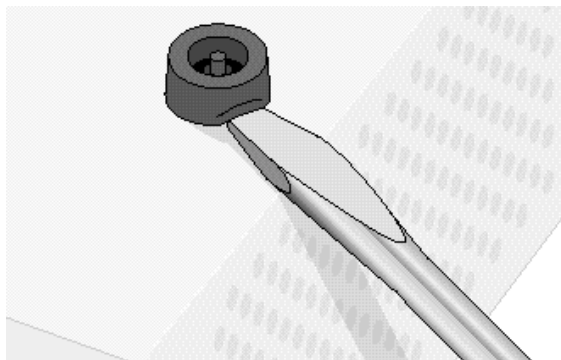
本製品には、あらかじめ底面の四隅にゴム足が取り付けられています。ゴム足は本体を固定し、衝撃を吸収するクッションの役目をしますので、本製品をデスクの上などに設置する場合は、必ずゴム足を使用します。

▶ 本製品を 19 インチラックに取り付ける場合は、ゴム足ははずしてください。

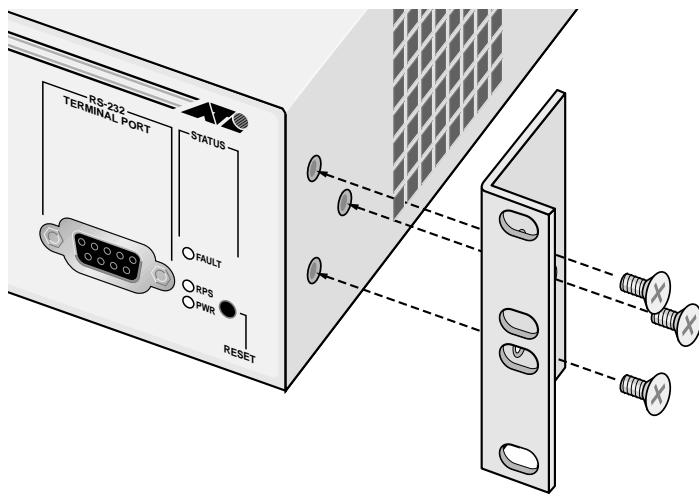
▶ 19 インチラックへの取り付け

同梱の取付金具を使用して、EIA規格の19インチラックに取り付けることができます。

- 1 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。
- 2 本体底面の四隅に取り付けられているゴム足をはずします。



- 3 本体側面に取付金具を合わせ、取付金具用ネジで両側にしっかりと固定します。



- 4 19インチラックの希望する位置に本体を合わせて、ラックに付属しているネジでしっかりと固定します。このとき通気口がふさがらないようご注意ください。

⚠ 取付金具および取付金具用ネジは必ず同梱のものを使用し、19インチラックに適切なネジで確実に固定してください。

固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

- 5 電源ケーブルを接続し、本体に電源を投入します。接続が正しければ本体前面のPWR LED(緑)が点灯します。

2 接 続

コンソールを接続する

コンソールを使用して内蔵のソフトウェアにアクセスする場合は、RS-232ストレートケーブルで、本体前面ターミナルポートとコンソール側のRS-232コネクタを接続します。

i ターミナルエミュレーションソフトの設定については、「オペレーションマニュアル」で説明します。

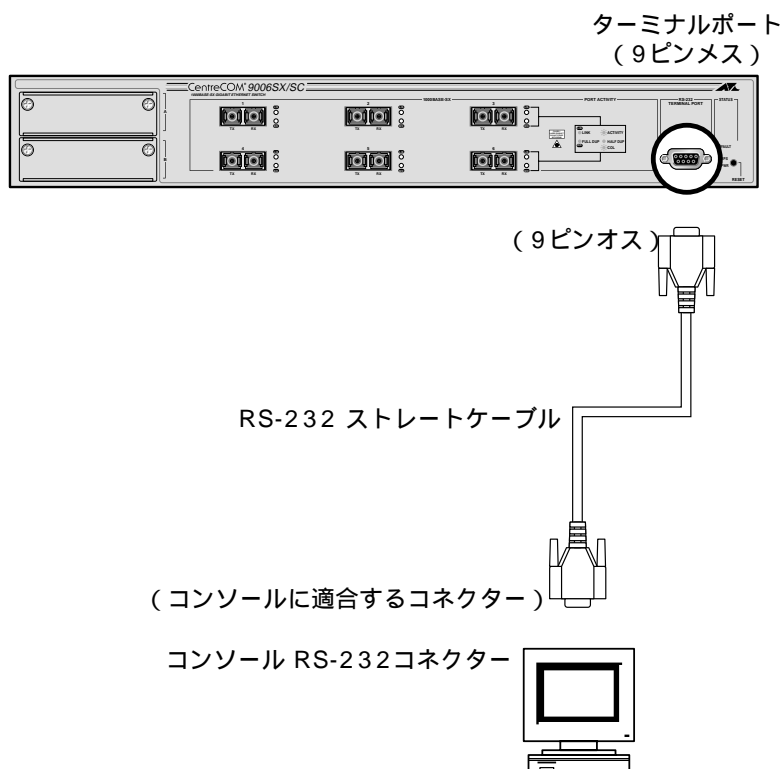
コンソール

コンソールは、VT-100互換のターミナルエミュレータを実行するRS-232コネクタ付きPCおよびワークステーション、またはRS-232コネクタ付き非同期ターミナルのご使用をお勧めします。

本製品のソフトウェアは、VT-100/ANSI対応と一般的なダム端末対応の2種類のターミナル設定をサポートしていますので、ほとんどすべてのターミナルタイプと互換性を持つことができます。

ケーブル

ケーブルはRS-232ストレートケーブルで、一端が9ピンオスのD-subコネクタで、もう一端がコンソールのRS-232コネクタに適合するものを使用します。

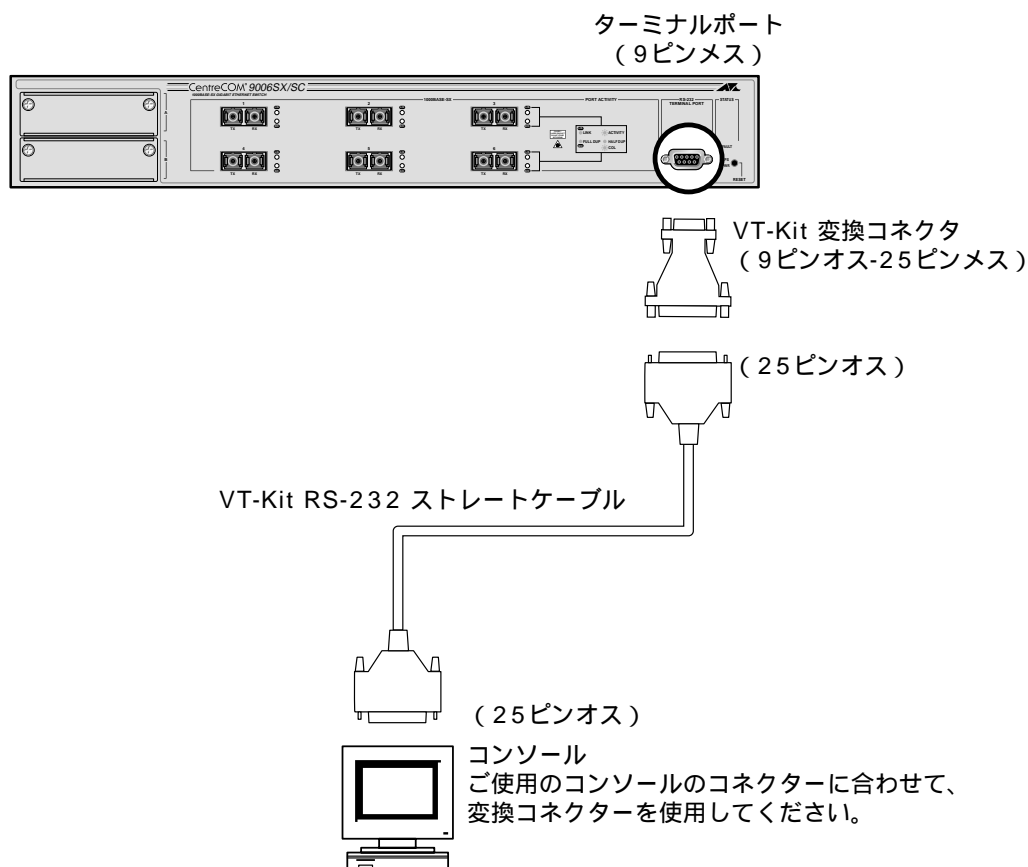


VT-Kit を使用する場合

弊社では、PCをコンソールとして使用するためのVT100エミュレーションとRS-232ケーブルをセットにした商品「VT-Kit」を販売しております。

弊社 VT-Kit を使用する場合は、図のように本製品とコンソールを接続します。VT-Kitは、PC-9800シリーズ、およびIBM-PC/XT/AT、DOS/V、AX機のいずれのPCでもご使用いただくことができます。

- セット内容：
- ・RS-232 ストレートケーブル(25 ピンオス -25 ピンオス)
 - ・各種変換コネクタ
 - ・VTTERM(MS-DOS 版端末エミュレーション)



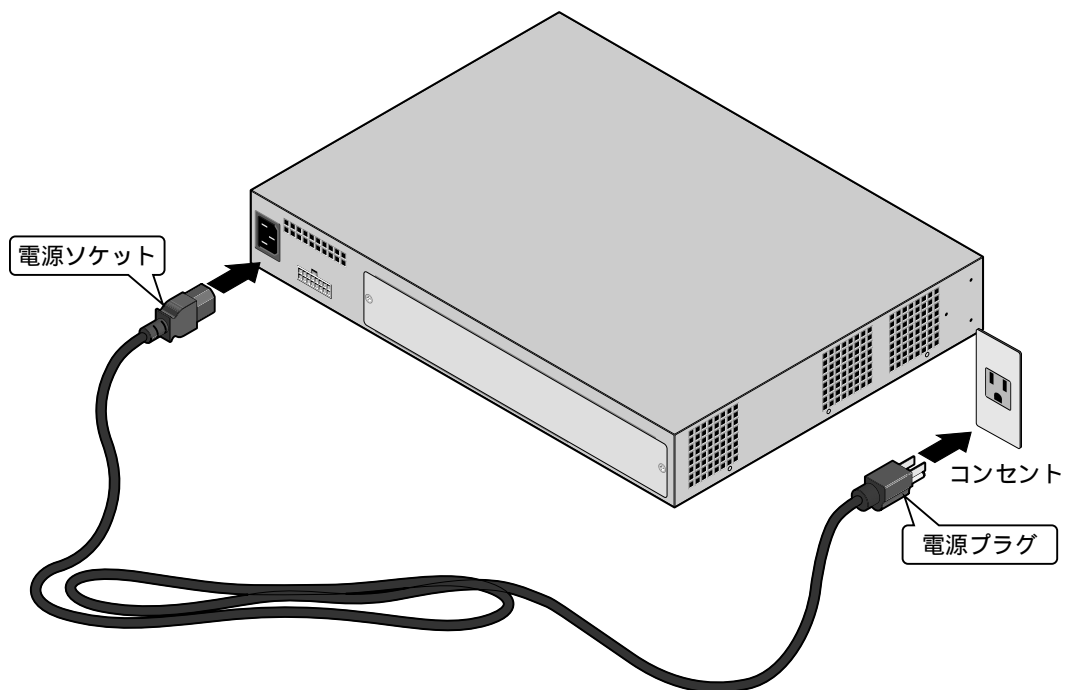
2 接 続

電源ケーブルを接続する

本製品は、電源ケーブルを接続すると、自動的に電源が入ります。

▶ 本体の起動

- 1 電源ケーブルの電源ソケットを本体背面の電源コネクタに接続します。
- 2 電源ケーブルの電源プラグを電源コンセントに接続します。
- 3 電源が入ると、本体前面 STATUS LED の PWR LED が緑に点灯します。



電源を切る場合は、電源プラグを電源コンセントから抜きます。
電源プラグに電源コンセントを接続したまま、電源ソケットを抜かないでください。

⚡ 本製品を AC100・120Vで使用する場合は、同梱の電源ケーブルを使用してください。

また、指定された電源電圧以外で使用しないでください。

不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。


3

付 録

この章では、トラブルシューティング、オプションの拡張モジュールの仕様、拡張モジュールの装着手順、製品仕様について説明しています。

1 トラブルシューティング


本製品を使用中になんらかのトラブルが発生したときの対処方法について説明します。以下の処置をしても正常に動作しないときは、アライドテレシス サポートセンターまでご連絡ください。

 4-2 ページ「サポート連絡先」

セルフテストについて

本製品は、セルフテスト機能(自己診断機能)を備えており、万が一異常が発生したときには、そのテスト結果を本体内蔵のソフトウェア「Administration」メニューの「Diagnostics」画面に表示し、異常の内容に応じて動作を制御します。

 「Diagnostic画面については、「オペレーションマニュアル」で説明します。

 オペレーションマニュアル 2-31 ページ「システム診断」

セルフテストの実行


セルフテストは次の場合に実行されます。

- 電源を投入したとき
- 本体前面リセットボタンを押してリセットしたとき
- 本体内蔵のソフトウェアを使用してリセットしたとき
- 致命的エラーによって自動的にリセットしたとき

テスト項目

テスト結果に表示されるセルフテスト項目は次のとおりです。テスト結果は、「Good」または「Failed」で表示されます。

- Flash PROM
- RAM
- シリアルインターフェイス

 「Diagnostic画面は、本体内蔵のソフトウェアにTelnet経由でアクセスしている場合は表示されません。

トラブルと思ったら

トラブルが発生したときは、まず発生したトラブルやLEDの状態を確認のうえ、該当の説明をお読みください。

LED 表示の確認

PORT ACTIVITY LED

各ポートの状態を表示します。

LED	色	状態	表示内容
L/A (Link/Activity)	緑	点灯	リンクが確立しています。
		点滅	パケットを送受信しています。
		消灯	リンクが確立されていません。
D/C (Duplex/Collision)	緑	点灯	Full duplexで通信しています。
		点灯	Half duplexで通信しています。
	橙	点滅	コリジョンが発生しています。
		消灯	リンクが確立されていません。

STATUS LED

システムの状態を表示します。

LED	状態	表示内容
FAULT (赤)	点灯	システム、または内蔵ソフトウェアが故障しています。
	点滅	セルフテスト実行中です。(起動時) FLASH ROMに書き込みを行っています。(運用時) XMODEM経由でファイルを転送中です。
	消灯	システムに異常はありません。
RPS (緑)		RPSはサポートされていないため消灯。
PWR (緑)	点灯	本体に電源が供給されています。
	消灯	電源ケーブルが正しく接続されていないか、指定した電源電圧が使用されていません。

1 トラブルシューティング

電源を投入したが、PWR LED が点灯しない

電源ケーブルが、正しく接続されていますか。

電源ケーブルに断線等はありませんか。

AC100V、50/60Hzの電源電圧で使用する場合は、必ず、同梱の電源ケーブルを使用してください。

指定された電源電圧を使用していますか。

ネットワークケーブルを接続しても LINK LED が点灯しない

正しい光ファイバーケーブルを使用していますか。


ケーブルはGK(Graded Index)型マルチモード光ファイバーケーブルで、コア/クラッド径が62.5/125 μm 、もしくは50/125 μm のものを使用してください。

光ファイバーケーブルが正しく接続されていますか。

マルチモード光ファイバーケーブルは2本で1対となっています。本製品のTXを接続先の機器のRXに、本製品のRXを接続先の機器のTXに接続してください。

光ファイバーケーブルの長さが制限を越えていませんか。

1000BASE-SXの場合、使用する光ファイバーケーブルの「コア径」や「伝送帯域」によって最大距離が異なります。

 3-9 ページ「ケーブル仕様」


接続先の機器に電源は投入されていますか。

通信モードは接続先の機器と通信可能な組み合わせに設定されていますか。

FAULT LEDは点灯していませんか。

本体に異常が発生した場合は、FAULT LED は点灯したままになります。


本体前面のリセットボタンを押す、または内蔵ソフトウェアの「Administration」メニューの「Reset and restart the system」を選択してリセットを行うか、電源ケーブルを接続しなおしてください。

 オペレーションマニュアル 2-32 ページ「システムリセット」

それでも、FAULT LEDが点灯したままとなる場合は、アライドテレシス サポートセンターまでご連絡ください。

内蔵ソフトウェアの設定で、ポートがDisabled(使用不可)に設定されていませんか。

「Port status and configuration」メニューの「Port Status Menu」画面でステータスを確認してください。

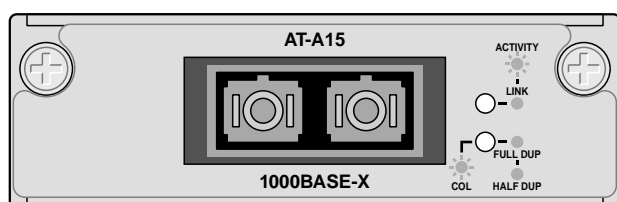
 オペレーションマニュアル 2-4 ページ「ポートステータスの表示」

2 拡張モジュール

本製品には、拡張モジュール(別売)が用意されています。本製品の拡張モジュール用スロットに装着可能で、アップリンクとしてデバイス間的高速接続が可能になります。

AT-A15/SX・AT-A15/LX

AT-A15/SXは1000BASE-SXポートを1ポート、AT-A15/LXは1000BASE-LXポートを1ポート装備しています。



コネクタの色

AT-A15/SX ---- 黒

AT-A15/LX ---- 青

AT-A15
1000BASE-X x 1ポート

項目	仕様
外形寸法	81.0mm (W) x 25.5 mm (H) x 181.0 mm (D)
重量	150g

LED表示

LED	色	状態	表示内容
LINK ACTIVITY	緑	点灯	リンクが確立しています。
		点滅	パケットを送受信しています。
	-	消灯	リンクが確立していません。
FULL DUP HALF DUP COL	緑	点灯	Full duplexで通信しています。
	橙	点灯	Half duplexで通信しています。
		点滅	コリジョンが発生しています。
-	消灯	リンクが確立していません。	

2 拡張モジュール

仕様(AT-A15/SX)

項目	仕様			
規格	IEEE 802.3z 1000BASE-SX			
コネクタ	SC 2芯			
通信モード	Auto negotiate Full duplex (固定) Half duplex (固定)			
波長 (nm)	850			
ファイバタイプ	MMF			
コア径 (μm)	50	62.5		
伝送損失 (dB/km)	3.5	3.75		
伝送帯域 (MHz・km)	400	500	160	200
伝送距離 (m)	2~500	2~550	2~220	2~275

仕様(AT-A15/LX)

項目	仕様		
規格	IEEE 802.3z 1000BASE-LX		
コネクタ	SC 2芯		
通信モード	Auto negotiate Full duplex (固定) Half duplex (固定)		
波長 (nm)	1300	1310	
ファイバタイプ	MMF	SMF	
コア径 (μm)	50	62.5	10
伝送損失 (dB/km)	1.5	1.5	0.5
伝送帯域 (MHz・km)	400 or 500	500	N/A
伝送距離 (m)	2~550	2~550	2~5000

MMF: Multi Mode Fiber(マルチモードファイバー)

SMF: Single Mode Fiber(シングルモードファイバー)

3

付録

3 拡張モジュールの取り付け

⚠ 拡張モジュールの取り付け/取りはずし作業は、必ず、本体の電源ケーブルを抜いて、電源を切ってから行ってください。感電の恐れがあります。

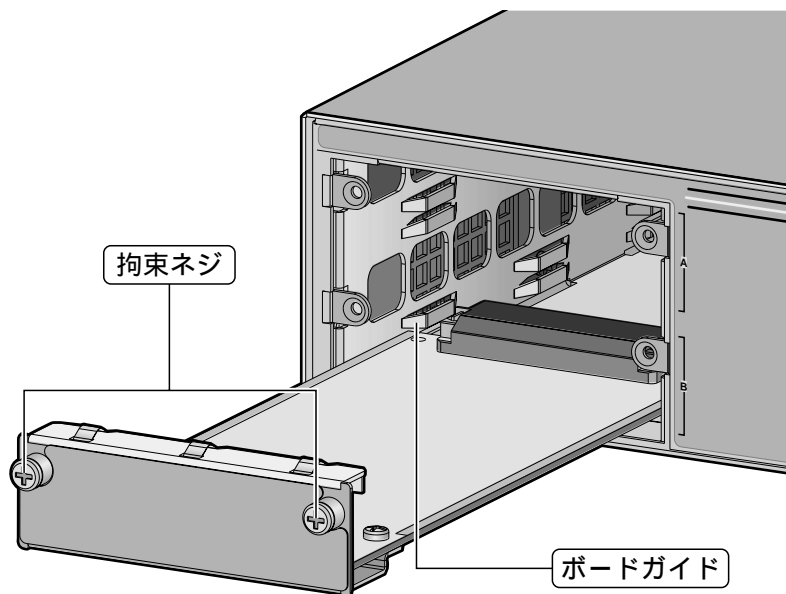
! 拡張モジュールは、静電気に非常に敏感な部品を使用しています。静電気によって、電子部品が損傷する恐れがありますので、取り扱いの際は、アースストラップを使用するなどの静電防止対策をして、ボード部分にはできるだけ手を触れないようにしてください。
また、保管するときは、拡張モジュールが梱包されていた静電防止袋に入れて、静電気のある場所を避けてください。

▶ 拡張モジュールの取り付け

- 1 本体の電源ケーブルを抜きます。
- 2 本体前面拡張モジュール用スロットのカバーパネルのネジをドライバーでゆるめて、カバーパネルをはずします。


! カバーパネルは、拡張モジュール装着するとき以外ははずさないようにしてください。

- 3 拡張モジュールのボード部分を、スロットのボードガイドにそって差し込みます。
このとき、ボード部分には手を触れず、前面パネルを持って取り付けを行ってください。



- 4 拡張モジュールの前面パネルが本体の前面パネルとそろった位置まで、拡張モジュールを押し込みます。

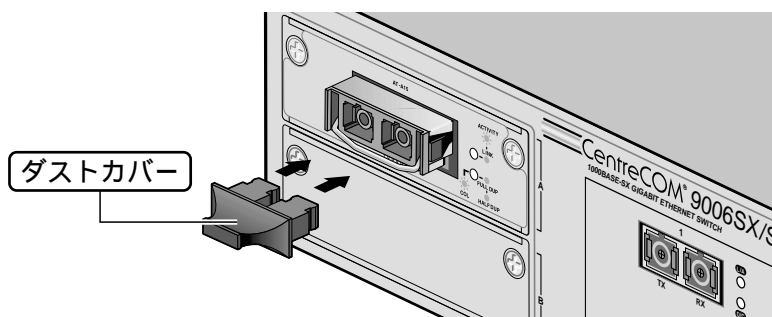
3 拡張モジュールの取り付け

- 5 拡張モジュールの拘束ネジをドライバーでしめます。
- 6 拡張モジュールが本体に固定されたことを確認します。
- 7 電源ケーブルを接続します。
 2-6 ページ「電源ケーブルを接続する」
- 8 以上で、拡張モジュールの装着が完了しました。

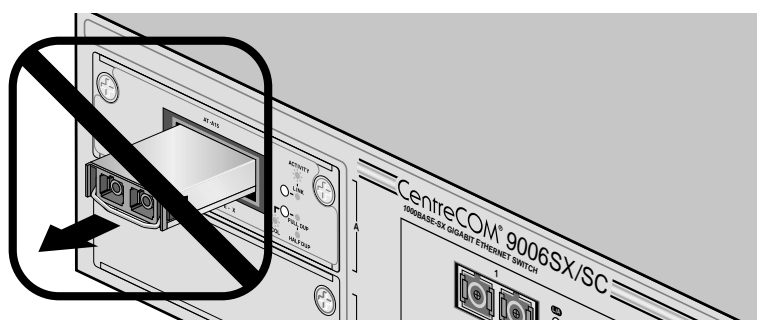
拡張モジュールを取りはずす場合は、拘束ネジをドライバーでゆるめ、前面パネルを持ってゆっくりと引き抜きます。

拡張モジュールを装着していないときは、拡張モジュール用スロットにカバーパネルを取り付けておいてください。

- ▶ 拡張モジュールを 1 枚のみ使用する場合は、上段のスロット(スロット A)に装着してください。
- ▶ 光ファイバーケーブルを接続していないときは、必ずコネクタにダストカバーを装着してください。



- ▶ AT-A15/S・AT-A15/L の GBIC モジュールの取り外しや、他の GBIC モジュールと差し替えないでください。また、他の GBIC モジュールを装着した場合のサポートは行っていません。



GBICモジュールを抜かない

4 仕様

ここでは、本製品に関する詳細な情報を必要とする方を対象に、本製品の動作条件や、コネクターのピンアサインなどを説明します。

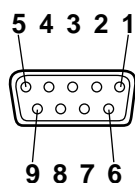
コネクタ仕様

1000BASE-SX インターフェース
2連 SC コネクタを使用しています。

項目	1000BASE-SXインターフェース
波長	850nm
送信光パワー	-5.5dBm~-9.5dBm
最大減衰量	-17.0dBm以下

RS-232 インターフェース

D-Sub 9 ピン(メス)タイプのコネクタを使用しています。



RS-232 DCE	信号名 (JIS規格)	信号内容
1	NOT USED	未使用
2	TXD (TD)	送信データ
3	RXD (RD)	受信データ
4	DSR (DR)	データセットレディ
5	SG (SG)	信号用接地
6	DTR (ER)	データ端末レディ
7	CTS (CS)	送信可
8	RTS (RS)	送信要求
9	NOT USED	未使用

ケーブル仕様

1000BASE-SX ケーブル

G(Graded Index)型マルチモード光ファイバーケーブルで、コア/クラッド径が62.5/125 μ m(推奨) もしくは50/125 μ mのものを使用します。

項目	GI型マルチモード光ファイバーケーブル			
波長 (nm)	850			
コア径 (μ m)	50	62.5		
伝送損失 (dB/km)	3.5	3.75		
伝送帯域 (MHz-km)	400	500	160	200
伝送距離 (m)	2~500	2~550	2~220	2~275

4 仕様

本製品の仕様

サポート規格	
	IEEE 802.3/IEEE 802.3u/IEEE 802.3x IEEE 802.3z/IEEE802.1d/IEEE802.1p IEEE 802.1Q (VLAN tagging)
1000BASE-SXインターフェース	
波長	850nm
送信光パワー	-5.5 ~ 9.5dBm
受光感度	0.0 ~ -17.0dBm
転送モード	
	ストア&フォワード
電源部	
定格入力電圧	AC100V ~ 120V/AC200V ~ 240V (切替設定不要)
入力電圧範囲	AC90V ~ 255V
定格周波数	50/60Hz
最大入力電流	4.0A (AC100V ~ 120V) / 2.0A (AC200V ~ 240V)
平均消費電力	75W (最大80W)
平均発熱量	64.5kcal/h (最大68.8kcal/h)
環境条件	
保管時温度	-20 ~ 60
保管時湿度	95%以下 (ただし、結露なきこと)
動作時温度	0 ~ 40
動作時湿度	80%以下 (ただし、結露なきこと)
外形寸法 (突起部含まず)	
	約440(W) X 357(D) X 66(H)mm
重量	
	約6.0kg
MACアドレス登録数	
	12,000個 (最大)
メモリー容量	
	24 MByte (単体)
適用規格	
安全規格	UL1950
EMI規格	VCCIクラスA
サポートするMIB	
MIB II	RFC 1213
イーサネットMIB	RFC 1398
ブリッジMIB	RFC 1493
インターフェース 拡張グループMIB	RFC 1573
プライベートMIB	

3

付録

4

保証とユーザーサポート

この章では、本製品の保証と、障害の際のユーザーサポート、調査依頼書のご記入方法について説明します。

1 保証とユーザーサポート

保証

本製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」をお読みになり、「お客様インフォメーション登録カード」に必要事項をご記入の上、弊社「お客様インフォメーション登録係」までご返送ください。

「お客様インフォメーション登録カード」が返送されていない場合、保証期間内の無償での修理や、障害発生時のユーザーサポートなどが受けられません。

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない)については、弊社は、その責を一切負わないこととします。

ユーザーサポート

ユーザーサポートを受けていただく際には、このマニュアルの調査依頼書を(拡大)コピーしたものに必要事項をご記入の上、下記サポート連絡先までFAXしてください。

記入内容などについては、「2 調査依頼書のご記入にあたって」を参照してください。

サポート連絡先

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

Tel: ☎ 0120-860-772

祝・祭日を除く月～金曜日 9:00～18:00(12:00～13:00は昼休み)

祝・祭日を除く土曜日 10:00～17:00

Fax: ☎ 0120-860-662

年中無休 24時間受付

2 調査依頼書のご記入にあたって

本依頼書は、障害の原因をできるだけ早く見つけるためにご記入いただくものです。ご提供いただく情報が不十分な場合には、原因究明に時間がかかったり、最悪の場合には、問題が解決できないこともあります。

迅速に問題の解決を行うためにも、弊社担当者がお客様の環境を理解できるよう、以下の点にそってご記入ください。

記入用紙に書ききれない場合は、プリントアウトなどを別途添付してください。

なお、状況によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

使用しているハードウェア、ソフトウェアについて

製品名、シリアル番号(S/N)、リビジョン(Rev)を調査依頼書に記入してください。


シリアル番号、リビジョンは、製品に同梱されている(本体底面に貼付されている)シリアル番号シールに記入されています。

(例)



ソフトウェアバージョンを記入してください。

ソフトウェアバージョンは、「Administration」メニューの「Diagnostics」画面に表示されます。

 オペレーションマニュアル 2-31 ページ「システム診断」

お問い合わせ内容について

どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に(再現できるように)記入してください。

エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトなどを添付してください。

ネットワーク構成について

ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。

他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

4

保証とユーザーサポート

調査依頼書(CentreCOM 9006SX/SC)

年 月 日

一般事項

1. 御社名:

部署名:

ご担当者名:

ご連絡先住所:〒

TEL: ()

FAX: ()

2. 購入先:

TEL: ()

購入先担当者:

購入年月日:

ハードウェアとネットワーク構成

1. 製品名、シリアル番号(S/N)、リビジョン(Rev)、ソフトウェアバージョン

製品名: CentreCOM 9006SX/SC



S/N _____ Rev ____

ご使用の拡張モジュール: AT-

ソフトウェアバージョン: Version

2. お問い合わせ内容

別紙あり

別紙なし

設置中に起こっている障害

設置後、運用中に起こっている障害

3. ネットワーク構成図

別紙あり

別紙なし

簡単な図で結構ですからご記入をお願いします。

